

# ふるさと吉富町

私たちが暮らす「吉富町」には、現在に至るまでの数々の歴史があります。

そして、そこには現在の快適な生活のベースがあります。

そんなふるさと吉富町について、いろいろな視点からご紹介していきます。



桜満開の天仲寺公園

## 第22回 変わりゆく景色、受け継がれる想い —天仲寺山(北側編)—

### 多くの人々が集う山

天仲寺山の歴史を辿るシリーズ、今回は後編として北側の山を巡ります。「小学校の裏山」として馴染み深いこの山、運動会のお昼休みに山頂の広場でお弁当を食べた方も多いのではないでしょうか。また、毎年9月に実施される古表神社の「御神幸」の際にも、この山で昼食を取ったあと「お囃子競演会」が行われています。一方、春になると山全体が桜一色に染まり提灯も灯され、町内外からの多くの花見客で賑わいます。自然豊かで複合遊具やトイレも整備されていることなどから、遠足や家族連れの人気が高いようです。

### 公園事業と戦没者慰霊観音像

多くの方に親しまれているこの山が公園化されたのは昭和45年。当初は「吉富公園」という名称で、明治100年記念事業として



吉富公園開園時(昭和45年)

開園しました。現在も、公園の一角に開園当時の門構えが残されています。また、その近くには高さ5mほどの白色の観音像があります。これは開園と同時期に完成した「平和観音像」で、土屋の彫刻家・深津旦山氏(故人)により制作されました。この観音像の建立にあたっては、戦友の慰霊のために町内の有志の方々が発起し奔走されたそうです。台座には288人の戦没者名と追悼の短歌などが刻まれており、鎮魂と平和への想いを新たにしている場所となっています。

その後、公園としての機能をより一層高めるため、国の補助金などを活用して整備が図られ、平成9年、町内初の都市公園として「天仲寺公園」が完成しました。



平和祈念観音像

### 新しい町のシンボル

さて、この山の南端には、「吉富町」の名が入った給水タンクが建っていました。これは昭和50年に建設されたもので、町内の家庭への安定的な給水を担っていました。今般、老朽化に伴い機能強化を図るため、新しい給水タンクを2塔建設することとなり、現在工事が進行しています。古い給水タンクについては既に取り壊され、完成した新しいタンク1塔からの給水が始まっています。新タンクは空の色に馴染む薄水色で、古いものより高さもあるものです。さらに、この工事に伴い付近の園路や植栽なども再整備される予定のため、町内の景色もこれまでと少し変わって見えるのではないのでしょうか。

整備され変化していく景色と、変わらず継承されていく想いや歴史。天仲寺山は、多くの人の憩いの場所としてこれからも愛され続けることでしょう。



新旧給水タンク(平成29年11月)